

2018年3月期 決算説明会 主な質疑応答

※本内容は、書き起こしではなく、説明会での質疑応答の内容を弊社にて簡潔にまとめたものです。あらかじめご了承ください。

【全体に関するご質問】

- Q. 総還元性向の基となる利益の考え方について、17年度実績は、特別損失等により親会社に帰属する当期純利益が計画を下回ったが、キャッシュフローに関係のない特別損失等の項目を除外した利益を基準とした株主還元の実施等は検討されるのか。
- A. 還元については、親会社に帰属する当期純利益を基準に考えているものの、ご指摘の考え方も検討しながら、株主の皆様に還元してまいりたい。
- Q. 17年度実績、18年度計画ともに利益が対中期経営計画で若干の上振れ傾向にあるが、中期経営計画の最終年度である2020年度含め、継続的に上振れる見込みなのか。
- A. 17年度上期は非常に好調であったものの、下期は天候不順等により大きく下振れしたように、先行きは不透明な状況である。昨今の経営環境等を慎重に見極めながら、確実な計画達成を目指していきたい。

【各事業に関するご質問】

- Q. スカイツリーの入場者については、17年度は、開業5周年イベントの効果があったにもかかわらず、天候不順の影響により、対前年で減少であった。18年度は対前年で増加を計画しているが、増加要因および営業施策を教えてください。
- A. 17年度上期は5周年イベント効果もあり対前年約13万人の増加と好調であったものの、下期は天候不順の影響等により対前年約17万人の減少となった。18年度については、上期は17年度上期並み、下期は天候影響のなかった16年度下期並みとみて計画を策定している。18年4月のスカイツリー入場者は、計画値37万5千人のところ、実績値約38万2千人と好調に推移しており、下期も天候さえ安定していれば十分達成できる計画と考えている。引き続き、集客につながるあらゆる施策を実施していく。

- Q. ホテル事業については、新規ホテル開業準備費用により 18 年度計画も対前年減益を見込んでいるとのことだが、既存ホテルの状況はどうか。各ホテルの客室単価の推移や、既存ホテルの収益拡大策について教えてほしい。
- A. ホテル事業においては、客室や料理等のサービス品質を向上し、単価を高める方針をとっており、その成果も現れている。一昨年リニューアルを実施した品川東武ホテルにおいても客室単価を高められている。また、特に宿泊においてはインバウンドの効果もあり好調である。引き続き、サービスを充実させ、単価をあげていくことで収益の拡大を図っていく。
- Q. 有明土地の有効活用について、広大な敷地を有しているが、自社開発または他社との協働等、どういった方法が最適であると現時点で考えているのか。
- A. 有明土地については、面積は 10,411 m²あり、ゆりかもめ線有明テニスの森駅近くの角地と非常によい立地である。他社との協働の可能性もない訳ではないが、現時点では単独を想定し、東京オリンピック後の様子も見極めながら、検討していく。

以 上